

アーリン夫人。アウガスタスさん、お早うございます。御機嫌よろしうございますか？

アウガスタス卿。(冷淡に) ええ、ありがたう。

アーリン夫人。でもお顔色があんまりよろしうございませんね。あなたは夜更しをなさいましたね。——毒でございますよ。ほんたうにもつと體をお大切になさいます。ではさやうなら。ウキンダミーヤさん。(アウガスタスにお辭儀をして、戸口の方へ行く。急ににこ／＼して、アウガスタスを振り返りながら) アウガスタスさん、私を馬車まで見送つて下さいませんか。あなたは扇を持つて来て下さるでせうね。

ウキンダミーヤ卿。私を持つてまゐりませう。

アーリン夫人。いゝえ、アウガスタスさんにお願ひ申します。私は公爵夫人に

特別な用事がございますの。アウガスタスさん扇を持つて行つて下さいませんか。

アウガスタス卿。ほんたうにお望みなら持つてまゐりませう。

アーリン夫人。(笑ひ乍ら) 勿論ほんたうでございますわ。あなたはそれをきつとうまく持つていらつしやるわ。あなたは何でもうまく持つていらつしやるわ。

(アーリン夫人は戸口へ近付いた時に、一寸ふり返つてウキンダミーヤ夫人を見る。二人は目と目を見合せる。それから夫人はぐるりと後を向いてアウガスタスを従へながらCより退場)

ウキンダミーヤ夫人。アーサー、あなたは決してアーリン夫人の事を二度と再び悪くおつしやらないでせうね？

ウキンダミーヤ卿。(おこそかに)あの婦人には思つたよりいゝ處がある。

ウキンダミーヤ夫人。あの方は、私よりも善人ですわ。

ウキンダミーヤ卿。(微笑しながら彼女の頭を軽く叩いて)お前とあの女とは別の世界に住んでゐるのだ。お前の住んで居る世界には悪い事は決して這入つて來ないのだよ。

ウキンダミーヤ夫人。そんな事をおつしやるものではございません。私達にはたつた一つの世界があるばかりでございますわ。さうしてその世界には善も悪も、罪も、無邪氣も、手を取り合つて、進んで行くのでございます。身を安穩に過さうと思つて、浮世の半面に目を閉じて了ふのは、丁度目隠しをして峻しい阪を夢中に通らうとするのと同じ事でございますわ。

ウキンダミーヤ卿。(彼女と共に降りて來て)お前、どうしてそんな事をいふ

のだね?

ウキンダミーヤ夫人。(ソファに坐す)何故つて、私は世間を知らなかつた爲めに、危い畦ふちへ連れて行かれましたの。さうして私達の中を割いたあの人が――

ウキンダミーヤ卿。私達は決して中をさかれやしなかつた。

ウキンダミーヤ夫人。私達は決して二度と中をさかれやしませんわ。アーサー、どうぞ私を變らずに愛して下さいまし。私はこれからは尙更貴方を信じますわ。心底から貴方を信じますわ。二人してセルビイへ行かうぢやございませんか。セルビイのローズガーターンには薔薇が咲いて居りますわ。白いのやら紅いのやら。

(アウガスタス卿Cに登場)

アウガスタス卿。アーサー、あの女は總ての事を説明してしまつた！

(ウキンダミーヤ夫人。この言葉に吃驚して蒼白になる。ウキンダミーヤ卿びつくりする。アウガスタス卿は、ウキンダミーヤ卿の腕を捕へて、舞臺の前方へ連れて来る。さうして低い聲で早口に話をする。ウキンダミーヤ夫人は怖れ戦きながら二人の様子を立つて見て居る)

ねえ君、あの女は厄介な事をすつかり説明して了つたんだ。我々はみんな、あの女を非常に悪く誤解してゐたんだ。あの女がダーリントンの部屋へ行つたのは全く僕の爲めだつた。實は僕に餘計な心配をさせまいと思つてね——最初にクラブを訪ねた處が、私が出かけて行つたといふ事を聞いたものだから——私の後を追ひかけて來たんだ——其處へ我々が這入つて來たので吃驚して——外の部屋へ逃げ込んだのだ——總ての事情は全くさうだつたのだ。

それで僕も安心した。僕等は皆あの女を慘酷に取扱つて居た。あの女は丁度僕に似合ひの女だ。僕にびつたり吻合して居る。あの女の要求する條件はイギリス以外の土地に住まはうといふ事だけなのだ。それも頗る結構な事ぢやないか。イギリスといふ所は厄介なクラブに、厄介な氣候に、厄介な料理、すべて厄介なものだらけだ。全く當てられて了ふよ。

ウキンダミーヤ夫人。(吃驚して)ではアーリン夫人は——?

アウガスタス卿。(丁寧にお辭儀をして彼女の方へ進み乍ら)奥さん——私はアーリン夫人と結婚をする光榮を有したのでございます。

ウキンダミーヤ卿。さあ、君の結婚しようとしてゐられる方は大變伶俐な婦人なんだよ!

ウキンダミーヤ夫人。(夫の手をとり乍ら)あゝ、あなたは本當にいゝお方と結

ウキンドグミーヤ夫人の囀

婚なさるんですわ!

(幕)

大正十五年三月廿三日
午後十時
T. S 生徒了

一九三〇、五、八、改訂

T. K. 氏

大正十五年三月廿三日
午後十時
T. S 生徒了

1948

昭和三十三年六月二十日(日)

午後二時、上野回廊、二階中央にて
読了する。吉田喜三郎(三十才)

1929.2.17. 午前 十時 支店

大正八年三月十九日印刷 大正八年三月廿三日發行	著者 谷崎潤一郎 發行者 株式會社天佑社 代表者 小林政治 發行所 東京市麹町區飯田町一丁目二番地 株式會社天佑社 電話 番町(東)一七九番 櫻井貯金口座一〇二二八番	東京市神田區三崎町三丁目一番地 印刷所 友文社	東京市神田區三崎町三丁目一番地 印刷者 檜山定吉
----------------------------	---	----------------------------	-----------------------------

ウキンドグミーヤ夫人の囀
定價金壹圓拾錢

天佑社新刊書目

田中王堂氏著

▲再版出來▼

徹底個人主義

四六判 ● 箱入美本
 定價金壹圓七拾錢
 送料金 八 錢

東京日々新聞の批評に曰く、「最近論壇の權威を以て推さるゝ王堂氏の論議、徹底個人主義以下九篇を集めて一巻とせるもの、何れも皆氏が最近の執筆に係り、各篇互に議論の對象を異にすと雖も歸する所は共に徹底せる個人主義、若くは個人主義の徹底を闡明せるに在り、獨立自足の論說として著者が試みたる此の「思想上の冒險」は纏て亦時代思潮の精華ならん云々」以て本書の價値を知るに足る。

佛蘭西佛蘭西グルモン氏原作 ■ 石川戲庵氏譯 ■ 鎌島武二氏大文豪装

再版 忽

小説 神人間答

四六判 金箱押
 箱入クローネ美本
 定價金壹圓三拾錢
 郵税金 八 錢

東京朝日新聞本書を評して曰く、「グルモンの名作、リュクサンブールの一夜」を翻譯せるもの曾てアポロン徒に基督と稱せられしと謂ふ神が今日の通常人の服裝にて現はれ一新聞記者と散歩の途上廣く人生問題に關して問答すると云ふ作意にして配するに美しき三人の少女を以てす、小説にして同時に詩歌、哲學といふを得べく感情と理智との理想的に綜合せられたる傑作也。譯者は曾てルソーの懺悔錄を譯して世に知られたる人なれば譯文の流麗なるはいふまでもなし。云々。

天祐社新刊書目

正宗白鳥氏著 ■正宗得三郎氏裝幀

烈日の下に

四六列箱入
定價金壹圓五拾錢
送料金八錢

現下小説壇の最高級に立てる大家として近來其筆致の愈渾熟し其觀照の益々透徹し來れるは白鳥氏也。人間の世紀末的苦惱と寂寥と倦怠とを描破して深刻。魂を噴破るが如き至境に滲入せるはチエホフの再生とも云べく、文情の精銳冷嚴にして而も詩味を含蓄せるはモアーパーサンを髣髴せしむ、特異の個性と特異の藝術を表現せる氏の最近小説の傑作の精神を輯めて敢て江湖にすゝむ。

中村吉藏氏著 ■岡本歸一氏裝幀 ■舞臺面コロタイプ

再版 戲曲 白隱和尚 編外四

四六列箱入
定價金壹圓六拾錢
送料金八錢

本書に對する萬朝報の批評に曰く「世間」と「白隱和尚」は帝劇に上演されて好評を博せるもの脚本にて讀めば又別種の味あり、「肉店」「金力」「小山田庄左衛門」等何れも奇警にして著者が新社會劇に於ける創作の技倆が益々圓熟の域に達せるを見るべし云々。

天祐社新刊書目

米國大統領 ウイルソン氏著
日本代議士前副參政官 關和知氏譯

賜天覽 新自由主義

菊中裁美本
定價金壹圓也
送料八錢

今や世界第一の巨人として又現代平和の盟主として億兆の渴仰を受け人類輿望の中心たる米國大統領ウイルソン氏が其金口を開き赤心を吐露せる稀世の名著は透くが如き江湖の需求に促されて縮刷を刊行せり、其立論の雄大にして而も深遠を極めたる其主義の高邁にして直ちに眞理を示現せる。一面曠世の大碩學たる氏の活きたる政治哲學にして他面又此無二の大哲人が現代に漲れる新思潮の大勢を豫見し、社會問題、民本主義、民衆政治の基調を闡明して之を解決すべき最高標準を道破せる豫言的獨子吼也。悉けなくも盡に 天覽の榮を賜ふ、苟くも本書を味讀せざれば現代世界の大潮を解する能はざるべし。

與謝野晶子著 ■津田青楓畫伯裝幀 (二月十二日發行)

感想錄
及
詩篇

心頭雜草

四六列布表裝美本
定價壹圓四拾錢
送料內地八錢

今や世界は最後の激變期に入り、怖るべき大動搖の中に、新しい生活の健全な秩序を確立しようとして、男も女も最善の努力を試みて居ります、我々日本婦人たる者、此世界の趨勢の前に如何なる理想と實行とを以て順應すれば宜しいか、この焦眉の實際問題に就て、一般の女子、父兄教育者達に對し特に私自身の覺悟を述べたるものは本書です。(著者)

天祐社新刊書目

米國大統領 ウイルソン氏原著
日本代議士前副參政官 關和知氏譯

賜天覽
縮刷
新自由主義

菊中紙箱入美本
定價 金壹圓也
送料 八錢

今や世界第一の巨人として又現代平和の盟主として億兆の渴仰を受け人類興衰の中心たる米國大統領ウイルソン氏が其金口を開き赤心を吐露せる稀世の名著は洵くが如き江湖の需求に促されて縮刷を刊行せり、其立論の雄大にして而も深遠を極めたる其主義の高邁にして直ちに真理を示現せる、一面曠世の大碩學たる氏の活きたる政治哲學にして他面又此無二の大哲人が現代に漲れる新思潮の大勢を豫見し、社會問題、民本主義、民衆政治の基調を闡明して之を解決すべき最高標準を道破せる豫言的獅子吼也。悉げなくも曩に天覽の榮を賜ふ、苟くも國民たるもの本書を味讀せざれば現代世界の大潮を解する能はざるべし。

吉井勇氏新著 ■中澤弘光氏裝幀 (一月十二日發行)

百人一首物語

四六判箱入美屬表裝
定價 金壹圓參拾錢
送料 八錢

吉井勇氏麗麗雄渾の筆を揮ふて氏が造詣深き新見所に立ち百人一首を解釋す、氏が斯道の新大家なる事は世既に定評あり。本書は從來の陳套なる解釋を捨て、新たに一生面を拓きたるものにして世の歌がるたを弄ぶ者は勿論一般歌學に志す者は是非一讀せざるべからず。

天祐社新刊書目

田山花袋氏著 ■津田青楓氏裝幀

最新紀行湖のほとり

四六判極彩布表裝
箱入 金壹圓四拾五錢
定價 金壹圓八拾錢
送料 八錢

田山花袋氏の紀行文大家として名聲噴々たるは夙に江湖の知る處也。本書は氏が最近の紀行文を輯めたるものにして、清新の情調と流麗の行文は眞に讀者をして恍惚たらしむ。氏の紀行文集多しと雖も本書の如く最新のものを集め、鏗心彫骨の名什を網羅したるものは他にあらず。苟くは一本を購うて無限の興趣を擲したまはらん事を。

文學博士 大類伸氏著

新刊 現代世界の史的觀察

四六判箱入
定價 金壹圓八拾錢
送料 八錢

(大戰終局に際し特に必讀を要する良書)

本書は史學界の泰斗大類博士が世界の發展を歴史的に回顧して現代の形勢を觀察したる論文説話を輯めたるものにして、所論多種多様、帝國主義あり國家主義あり、バグダード鐵道あり平和問題あり。更に日米の關係を語り西伯利亞の歴史を説き興趣盡きず。本書を讀みて歐洲平和の情勢を著目せば感更に深く、各國の折衝に一層の興を起すべし。學末には興味深き世界現勢の輸入統計を添へあり一見して世界の大事を知るを得。苟くも現代有識の士たらんとせば是非本書を一讀せざるべからず。

天佑社新刊書目

谷崎潤一郎氏序
佐藤春夫氏著 同氏裝幀
再版
病める薇薔

四六判箱入美本
定價金壹圓六拾錢
送料金 八 錢

近時文壇の新人として一躍第一流の地位を占めたるものは佐藤春夫氏也。氏の作品は文壇の新しき驚異也。巨匠谷崎潤一郎氏を目して得易からざる天才なりと極賞し、生田長江氏は明治大正年間に涉り自然を取扱ひたる文學中余の知れる限に於て佐藤春夫氏の作品は最も正道を踏み最も高所に達したるものなりと激賞し、田山花袋氏は大正七年間中感心したる作品は佐藤氏の『山園の憂鬱』のみなりと嘆賞せり。熱情炎の如く、才藻花の如く、氣品高くして眞摯の氣全篇を貫く。悉くは無韻の詩と謂ふべし。本書は氏の最新傑作の全部を網羅し一も剩す所無し。切に江湖の愛讀を要請す。

岡本綺堂氏新著 ■小倉淳氏裝幀

歷史 玉藻の前

四六判箱入美本
定價金壹圓四拾錢
送料内地 八 錢

古來日本の傳説中、最も面白くして興味多きは玉藻の前に關するローマンス也。妖艶無比、花の如き美人の周圍に起る數多の不可思議は吾人をして常に驚きざる興趣を感じしむ、本書は文壇の大家として有名なる岡本綺堂氏が胸襟の筆を以て新しく見たる玉藻の最も興味深く近代的に取扱ひたるものにして其不可思議なる美しくしき色彩のローマンスは恰かも一大繪巻物を展開する如く、一とたび之を繰れば恐らく巻を釋つる能はざるべし。

天佑社新刊書目

高須梅溪氏新著 ■津田青楓氏裝幀

ふらんす革命夜話

四六判箱入美本
定價金壹圓六拾錢
送料 八 錢

華麗の文章を以て有名なる高須梅溪氏は、フランス革命に關する情と理とを兼有せる軒著なきを遺憾とし、魁壯なる革命時代の舞臺に活躍せし英雄、詩人、學者、思想家、帝王、美人等を中心として長篇の一大壯史を公にせらる。氏が此種材料を描くに長じて第一人者たる事は夙に江湖の知る所、其燃ゆるが如き清新の詩情と繊細しの線を著けし若武者の如き文章とは眞に氏一代の大傑作也。

米國大哲學者ゼームス原著
文學士太田善男氏譯

信仰の哲學

四六判クローズ
箱入美本
定價壹圓六拾錢
送料 八 錢

本書は二十世紀の劈頭に於て最も天才的哲學者として世界に承認されたる米國の大思想家キリヤム・ゼームスの最後作として知られたる「信ぜんとする意志」を英米の文藝、思想専攻者として有名なる太田善男氏が充分の理解と忠實とを以て翻譯したるもの也。獨乙思想の專制より解放されたる今日、此民本的にして個性的なるアングロサクソン思想の代表者の代表名者は、世界の新浪勢に眼覺めたる人の是非一體せざるべからざるもの也。

天祐社新刊書目

文學博士 坪内逍遙先生著

逍 遙 劇 談

四六判クローヌ美木
定價一圓九十錢
送料 八 錢

文壇の泰斗逍遙先生、近來意氣益々昂り、並に其内外劇文學に於ける最新の研究結果を發表せらる、何れも苦心の長論文にして劇文學の精髓を既破せるもの也。本年文壇に於ける最大收穫の一は即ち本書也。

工學士(臨川)中澤重雄氏著

新 し き 科 學

菊判クローヌ美木
定價金二圓也
送料 八 錢

本書は科學者として亦文學者として有名なる臨川中澤重雄氏が最近非常なる精力を以て著述を遂げたる科學を社會の諸階級に讀ましめんが爲め叙述したるものなりと雖も尙も新學說の主潮と關係深き問題に必ずや之を徹底的に叙述せられたり。或一面に於ては『近世科學發達史』とも稱し得べく、物理化學の職にある人は勿論、一般新知識の涵養に心がくる人、又特に教職にある人々に對しては無二の好參考書たり。卷末『自然哲學の主潮』は著者が科學者にして併せて文學者たる本領を發揮したる出色の文字也。

377
179

終